

横田英史の 書籍紹介コーナー



トヨタ物語 ～強さとは「自分で考え、動く現場」を育てることだ～

野地秩嘉

日経BP社 2,484円(税込)

トヨタ自動車の歴史をたどりつつ、日米の現場への丹念な取材によってトヨタ生産方式の真髓や本質を探った書。圧巻の取材量でトヨタの哲学に肉迫しており、上っ面の紹介にとどまっていない。端々で人間臭さを感じさせているところがいい。全般に説得力のあるノンフィクションに仕上がっており、トヨタに興味をお持ちの方にお勧めである。400ページを超える大著だが、スイスイ読めるので気後れする必要はない。

興味深いのは豊田家をはじめ、幹部が現場でどういった経験を積み重ねてきたかを詳細に追っているところ。現副社長の友山茂樹はこう語る。「トヨタ生産方式に必要なことは、本で学ぶ知識でもなければ突出した能力でもない。悩む力＝悩むです。悩むことによって心の筋肉が鍛えられる。するとある日突然できなと思っていたことができるようになる」と。

教養としてのテクノロジー ～AI、仮想通貨、ブロックチェーン～

伊藤穰一、アンドレー・ウール

NHK出版 842円(税込)

ビジネスパーソンが押さえておくべき技術キーワードを、経済の未来、社会の未来、日本の未来の3章に分けて平易に解説した書。ただしMITメディアラボ所

長として“ひと捻り”を加えており単なる啓蒙書とは少々趣が違う。技術の背景にある考え方や哲学に言及し、テクノロジーについて本質的な理解を促している。同時に最新のシリコンバレーの動きも紹介しており、お徳感がある。

筆者は、現在をテクノロジーの端境期と考える。本来は社会を良くするための「情報技術の発展」や「規模の拡大」が自己目的化して、社会の様々な場面で軋轢や弊害を巻き起こしているを見る。イノベーションは、いま身の回りで起きていることに心を開き注意を払うことから生まれる。フューチャリスト(未来志向者)ではなくナウイスト(現在志向者)になるべきだと語る。

コミュニティー・キャピタル論 ～近江商人、温州企業、トヨタ、長期繁栄の秘密～

西口敏宏、辻田素子

光文社 928円(税込)

コミュニティーで培われる気風、習慣、人材育成の仕組み、人のつながりの構造が、ビジネスにおける継続的な繁栄にいかに有効かを論じた書。特定のメンバーシップによって明確に境界が決まり、その成員間でのみ共有された関係資本を、筆者は「コミュニティー・キャピタル」と呼びビジネスにおける長期的成功の要諦の一つだとする。優れたコミュニティー・キャピタルは、環境異変に対する高い耐性や成長性、長期にわたる成長と繁栄につながるという。

筆者は近江商人や中国の温州人の

コミュニティーの分析からはじめ、トヨタの成功の秘密に迫る切り口はユニークだし、ケーススタディとした挙げている東日本大震災におけるルネサス那珂工場の被災やアイシン精機の火災事故から復活劇も悪くない。非常に具体的な内容で役立ち感がある。

いちばんやさしい機械学習プロジェクトの教本

韭原祐介

インプレス 2,808円(税込)

人工知能(AI)をビジネスに導入する上での基本的なノウハウを紹介した書。AIが喧伝される時代背景、機械学習や深層学習の仕組みについての一般的な技術解説、AIプロジェクトに必要なリソースと組むべき体制、スケジュールの立て方、導入の手順、投資対効果の試算法、外部パートナーの選び方、費用の目安、契約形態、具体例といった項目が並ぶ。AIについてはある程度知っているが、ビジネス展開についての経験が足りない方にとって頭の整理に役立つ。

AIをビジネスの現場で使うために最低限知っておくべきポイントをコンパクトに押さえている。目のさめるような指摘がある訳ではないが、各トピックを図版を使いながら数ページで簡潔に説明しており読みやすい。組み込み技術者にとってAIがかなり身近になっており、ビジネスとして向き合う前に読んで損はない1冊である。

横田 英史 (yokota@nikkeibp.co.jp)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。

日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役役に就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係がありません。